

爲セハ小笛ヲ以テ之ヲ停止セシメ列兵ヲシテ其可否ヲ云ハシ
ヲ要スレハ之ヲ修正シ更ニ他ノ新兵ヲ以テ同一ノ動作ヲ爲サ
シム其方法及問答ハ第一演習ノ例ニ據ルヘキナリ今一二ノ例
ヲ舉クレハ左ノ如シ

「教」 堀 斥候ノ隔離スル距離ハ適當ナルヤ

「堀」 餘リ近キニ過ク

「教」 岡 斥候ノ停止スル位地ハ適當ナルヤ

「岡」 適當ナリ

「教」 良シ

「教」 原 何故適當ナリヤ

「原」 彼ノ位地ハ能ク前方ヲ見得レハナリ

「教」 坂 停止スルトキハ第一ニ前方何レノ地點ヲ觀察ス

ルヤ

「坂」 道路ノ附近ヲ熱視ス

「教」 島 其理由ハ如何

「島」 敵ノ歩哨斥候等ノ位地スヘキ點ナレハナリ

「教」 牧 其ノ次ハ何點ヲ注視スルヤ

「牧」 斜メ右ノ林縁

「教」 宜シ

「教」 谷 其理由如何

「谷」 敵兵ノ潛匿シ易キ地點ナレハナリ

各斥候ノ動作ニ依リ適切ノ講評ト必要ナル試問トヲ與ヘ且列
中ノ者ヲシテ成ルヘク一順此動作ヲ實施セシムルヲ勉ム可シ
之レ如何ニ口頭ニテ理由及答解ヲ明瞭ニ爲スモ其實施ニ當リ

ヲハ大ニ此ノ如クナラサル者アレハナリ百聞ハ一見ニ如カス
百見ハ一行ニ如カサルナリ

右ノ如ク各種ノ地形ニ依リ各種ノ行進法及搜索法ヲ教練シ以
テ各兵ノ共同動作ヲ完全ナラシム可シ

爾此演習ニ付キ教官ノ注意スヘキ件ヲ列擧スレハ左ノ如シ

最初ハ練兵場ノ如キ開豁地ニ於テ互ニ廣キ(約百米突)間隔

ヲ取リテノ行進法此時ニ於ケル斥候長ノ位地、斥候長ノ互

ニ交通スル要領、交通兵ノ動作等ヲ教練スルコト是レ地形

開豁ナルヲ以テ尤モ修正ニ便ナレハナリ

次ニ隱蔽地ニ入りテ互ニ其間隔ヲ閉縮シテ連絡ヲ保ツノ動

作

隱蔽地ヲ出テントスル時ハ其邊端ニ停止シテ前方敵兵ノ潛

在シアルヘキ地點ヲ觀察スルノ動作

敵兵アラサルヲ知り決意前進スル時ノ斥候長及他ノ兵ノ動

作

搜索ノ爲メニハ第一ニ各種ノ地形ニ於テ敵兵ノ潛匿シアル

ヘキ地點ヲ判斷シテ先ツ之ヲ熟視シ次ニ全般ノ情況ヲ觀察

スヘキ要領

此教練ニ於テ教官ハ一斥候ヲシテ一時ニ長距離ヲ經過セシム

ルコトナク小笛ヲ以テ局地毎ニ其斥候ヲ停止セシメ直ニ他ノ

新兵ヲシテ代ラシムヘシ此レ成ルヘク僅少ノ時間ヲ以テ多ク

ノ新兵ヲ教練セシメンカ爲メナリ而シテ同一ノ地區ニ於テ數

回ノ動作ヲ終レハ次ノ地點ニ移リ前ト同シ要領ニ從ヒ同一ノ

動作ヲ復行ス此ノ如クスルトキハ各兵ヲ均一ニ教練シ得ルノ

ミナラス一ノ斥候ヲシテ徒ラニ遠距離ニ至ラシムル爲メニ時
間ヲ徒費スル害ナキモノトス

第七 豫行演習

此教練ハ全ク第七週ニ於テ説明セシ要領ニ從ヒ實施スル者ニ
シテ全週間絶エス練兵場ニ於テ實施シ各班ヨリ順次ニ二名ノ
兵卒ヲ出シテ教練スル者トス

教官ハ能ク其順序ヲ定メ最初立射ノ姿勢次ニ膝射伏射ノ姿勢
ヲ教練シ終ニハ胸牆後ニ於ケル依托射撃ノ方法ニ至ルマテ教
練スルモノトス

此ノ如ク順序能ク教練シ之レニ熟スルニ至レハ教練射撃ニ
當リ其動作ノコトニ於テハ一モ修正ヲ要セサルニ至ルヘキナ
リ

第九週ニ於ケル演習ノ課目

- 一 二人以上ノ正面行進及伍ノ行進
- 二 射撃 (各個射撃)
- 三 行進間ノ着劍、脱劍
- 四 野外演習 (散兵教練)
- 五 豫行演習 (實距離ニテ)

第一 二人以上ノ正面行進及伍ノ行進

二人正面ニ於ケル行進ヲ教練スルノ必要ナルハ前週ニ於テ之
ヲ述ヘタリ本週ニ於テハ尙之ヲ三人若クハ四人ノ正面ト爲シ
テ教練スルコト必要ナリ之レ漸次部隊教練ニ慣レシムルノ準
備ナリトス其他本週ニ至レハ伍ノ行進ヲ教練スヘシ之レ各伍

ノ正シク前後ニ重複スルコト及ヒ前後列ノ距離ヲシテ常ニ正
當ニ保持セシムルコト等部隊ヲ編成セシ時ニ於ケル伍ノ動作
ニ慣レシムル爲メニシテ之レ亦部隊教練ヲ整正ニスルノ基礎
タルナリ伍ヲ編成シテ行進スルハ單獨ニ行進スルノ運動ニ比
スレハ其動作困難ナルモノナルヲ以テ各個教練ノ時期ニ於テ
已ニ之ニ熟練セシムルハ必要ナリ其方法ハ左ノ如シ

新兵部隊ヲシテ二列ノ横隊ト爲シ教官ハ左ノ説明ヲ爲ス
各伍ハ右翼ヨリ八歩ノ距離ヲ取り順次ニ前進スヘシ

實施

右翼伍ハ前後列兵共同時ニ號令ナク前進シ第二伍ハ八歩ノ距
離ヲ得レハ又直ニ發進ス此時教官ハ殊ニ列間距離ヲ正シク保
ツコトニ注意スヘシ

第二 射撃

新兵ヲシテ各個射撃ニ於ケル四種ノ號令ニ應シ適當ナル緩急
ノ度ヲ自得セシムルハ尤モ緊要ナル教練ナリ若シ此教練確實
ナラス新兵其緩急ノ度ヲ自得セサル時ハ指揮官ノ適切ナル射
撃號令モ確實ニ之ヲ實行スルヲ得ス之レカ爲メ無用ノ時ニ於
テ彈藥ヲ徒費シ或ハ必要ノ時機ニ於テ銃器ノ威力ヲ發揚スル
コト能ハサルユ至ルヘシ故ニ各個教練ニ於テ綿密ニ之ヲ演習
シ十分之ヲ自得セシメ假令彈丸雨注ノ際ト雖トモ號令ニ應シ
難ラス知ラス自然ニ適當ノ速度ヲ得セシムルコト殆ント兵卒
第二ノ天性タル如ク熟練セシメサルヘカラス
約言スレハ兵卒ヲシテ徐カニ(並ニ)(急キ)(連發)打カ、レノ
四種ノ號令ニ應シ如何ナル速度ニ據リテ銃ヲ肩ニ接スヘキカ

ヲ自得セシムルニ在リ此レカ爲メ教官ハ自ラ其速度ヲ臨場ニ
 記シテ其緩急ヲ修正スルカ或ハ時計ヲ以テ發射時間ヲ算シ其
 時間内ニ發射スル彈數ニ依リ之ヲ修正スルモノトス
 本週ニ至レハ新兵已ニ射撃ノ諸動作ニ熟練スルノ時期ナルヲ
 以テ此演習ヲ施行スルヲ得ルモノトス而シテ此教練ノ主ナル
 目的ハ發射ノ緩急即チ銃ヲ肩ニ接スルノ節度ヲ教練スルニア
 リ故ニ敢テ各個ニ之ヲ教練スルヲ要セス二名乃至四名同時ニ
 打カ、レ及打方止メノ號令ヲ以テ射撃セシメ教官ハ其射撃時
 間ト發射彈數トヲ算シテ其緩急ヲ規定修正スル者トス而シテ
 此射撃ノ緩急ハ大約次ノ標準ニ據ルヲ適當トス則チ徐カ射撃
 ハ一分時間ニ二發乃至三發並射撃ハ同時間ニ五發乃至七發急
 射撃ハ八發乃至十發連發將撃ハ十二發以上發射スヘキナリ故

ニ教官ハ號令ヲ以テ一分或ハ三十秒時間各種ノ射撃ヲ行ハシ
 メ然ル後各自ノ發射彈數ヲ檢シ以テ其緩急ノ適否ヲ知ルヲ便
 ナリトス此ノ如ク新兵ヲシテ十分其遲速ヲ了解セシメ漸次適
 當ノ速度ヲ以テ射撃シ得ルニ至ラシムヘシ然レトモ此ト同時
 ニ常ニ照準ヲ正確ニスヘキコトニ注意シ時トシテ助手ノ眼ヲ
 照準セシムルヲ可トス

此間助手ハ他ノ兵卒ヲシテ射撃姿勢及其動作ヲ復習セシム

第三 行進間ノ着劍、脱劍

行進間ノ着劍ハ散兵線若クハ援隊豫備隊等ノ運動中屢、要用
 ナル動作ニシテ尤モ迅速ニ之ヲ爲シ得ル如ク教練スルコト必
 要ナリ之レカ爲メ左ノ方法ニ依リテ教練ス

隊形及説明

新兵ヲシテ一步間隔ノ一列横隊トナシ教官ハ左ノ説明ヲ爲ス
右翼ヨリ順次歩調無ク前進シ上等兵ノ處ニ至レハ行進間ニ
於テ各個ニ着剣ヲ爲セ(教官模範ヲ示ス)右翼兵教官ノ前ヲ
通過シ終レハ次ノ兵ハ前進スヘシ

實施

各兵ハ號令ヲ待タス各自ニ前進シ示サレタル如ク動作ス此時
教官ハ迅速ニ着剣スヘキコト及ヒ歩度ノ變化セサルコトニ注
意シ之ヲ修正スヘシ

第四 散兵教練第三演習

散兵教練ニ於テ地形ヲ利用シ行進シ停止スルコトハ前通第一
第二ノ演習ニ於テ已ニ之ヲ教練シタリ本通ニ於テハ先キニ述
ヘタル區分ノ内第三ノ要件則チ射撃ノ動作ヲ教練セントス而

シテ射撃ノ動作ハ先ツ防禦戰闘ニ於テ之ヲ教練スルヲ便ナリ
トス之レ防禦ニ在テハ位地ヲ變スルコトナク單ニ敵ノ遠近、
目標ノ大小ニ依リ射撃ノ緩急ヲ變スヘキモノニシテ其戰闘法
ハ殆ントト火器ノ使用ニ外ナラサレハナリ兵卒防禦戰闘ニ於ケ
ル射撃ノ要領ヲ充分理解スル時ハ攻撃ニ於ケル射撃ノ要領ハ
自ラ了解シ得ル者トス

左ニ其方法ノ概略ヲ述フ

此教練ニ於テモ亦新兵掛將校ハ教官トナリ假設敵ヲシテ攻撃
ノ動作ヲ爲サシメ新兵ハ一陣地ヲ占領スル者ト做シ敵ノ動作
ニ應シテ射撃ノ緩急、地形ノ利用ヲ教練ス假設敵ハ前哨勤務
ノ時ニ述ヘタル要領ニ從フテ設置スルモノトス
教官ハ先ツ防禦スヘキ一地ニ新兵部隊ヲ誘導シ概テ左ノ如キ

説明ヲ爲ス

防禦戰鬪ニ在リテハ充分火器ヲ利用スヘシ

各兵ノ位地ハ尤モ射撃ニ便ナル如ク改造スヘシ

敵ヲ發見スルカ或ハ敵狀異動アルトキハ直ニ之ヲ報告スヘシ

敵ニ至ルノ距離ヲ測リ照尺ハ必ラス適當ニ之ヲ改装スヘシ

射撃ノ緩急ハ尤モ時機ニ適切ナルヘシ

急射撃及連發射撃ヲ爲スヘキ時機ヲ判斷スヘシ

其他所要ノ指示ヲ與ヘ次ニ左ノ任務ヲ命ス

敵ハ某村方向ニアリ小隊ハ此地ヲ防禦ス汝等ハ其小隊内ノ

一人トシテ動作シ敵ヲ發見スルトキハ直ニ適當ト信スル處

量ヲナスヘシ

教官ハ各教育班ヨリ一人ツ、ノ新兵ヲ出シテ占領スヘキ位地ニ就カシメ要スレハ之ヲ改修スル方法ヲ試問シ又其理由ヲ云ハシメ或ハ列中ノ者ニ試問シ尙要スレハ他ノ兵ヲシテ之ト同一ノ動作ヲ爲サシメ又之ヲ講評スル等約テ前諸演習ノ要領ニ準ス

「教」 林ハ其地點ヲ改造スル要領ヲ述フヘシ

「林」 方匙ヲ以テ此地ニ踏塚ヲ作ルヲ適當トス

「教」 東ハ其地點ヲ改造スル考ハナキヤ

「東」 此點ニ土ヲ積ミテ銃ノ依托物ヲ造ラントス

「教」 新ヨ西ノ占領セシ地點ハ適當ナルヤ

「新」 不適當ナリ何トナレハ其身ヲ蔽掩シ得ルモ銃ヲ依托スヘキ物ナクレハナリ

「教」新ハ他ニ適當ノ點ヲ占領スヘシ (新ハ自ラ可ト信スル地點ヲ占領セリ)

此ノ如ク問答ヲ終ルヤ教官ハ記號ヲ以テ敵ノ騎兵斥候ヲ現出セシム新兵ハ之ヲ見ルヤ直ニ小隊長ニ報告(例ヘハ斜メ左、敵ノ騎兵斥候前進)シ且ツ之レニ應スル動作ヲナス教官ハ其動作ニ應シ左ノ如キ問答ヲ爲ス

「教」柴 敵ノ騎兵斥候マテノ距離ハ如何

「柴」 六百米突

「教」星 射撃スルヲ適當ト爲スカ

「星」 未タ射撃セス之レ敵兵ハ未タ我ヲ知サラレハナリ

「教」南ノ動作ニ不同意ノ者ハ銃ヲ舉クモ (銃ヲ舉クルモノ多シ)

「教」中 何故不同意ナルヤ

「中」 敵ヲ見テ後速カニ隠蔽セサレハナリ

「教」谷 未タ射撃ヲ爲サ、ルヤ

「谷」 射撃ス之レ敵ハ已ニ五百米突ニ來リタレハナリ

次ニ教官ハ敵ノ騎兵ヲ退却セシメ又新兵ヲ交代シ敵ノ歩兵斥候ヲ現出セシム新兵又之ヲ報告シ之ニ應スル動作ヲナス教官之ヲ修正シ且試問ヲ爲シ若シ列中ニ於テ他ノ意見ヲ有スル新兵アレハ其動作ヲ爲サシメ之ヲ講評ス

次ニ敵ノ歩兵部隊ヲ現出セシメ新兵ハ之ニ應スル動作ヲナス此ニ依テ又左ノ如キ問答ヲ爲ス

「教」森 距離ハ如何

「森」 六百米突

「教」 杉 射撃ヲ始ムルヲ適當トスルヤ

「杉」 適當トス之レ敵ノ散兵ナレハナリ

「教」 谷 射撃ノ速度ハ如何

「谷」 徐カ射撃

「教」 徐カ射撃ニ同意ノ者ハ銃ヲ舉クヨ (皆同意ヲ表ス)

此ノ如ク問答シタルノ後又新兵ヲ交代セシメ敵ノ散兵ヲシテ前進セシム新兵ハ之ニ應ジテ射撃ヲ爲ス
教官ハ又問答ヲ始ム

「教」 現時ノ射撃速度ヲ高聲ニ述ヘヨ (新兵皆ナ並射撃ト答ヘタリ)

次ニ教官ハ肥號ヲ以テ敵兵ヲ停止セシメ又左ノ問答ヲ爲セリ
「教」 現時ノ射撃速度ハ如何 (新兵ハ皆徐カ射撃ト答ヘ

タリ)

次ニ教官ハ又其新兵ヲ交代セシメ敵ノ援隊タル密集隊ヲ前進セシム新兵ハ直ニ之ヲ報告シ之レニ應スル動作ヲ爲ス教官ハ又之レニ依リテ左ノ問答ヲ爲ス

「教」 平 今ノ報告ノ外ニ報告ナキヤ

「平」 右翼ニ敵ノ密集隊前進、距離五百米突ト報告ス

「教」 柏 實距離ハ如何

「柏」 五百五十米突

「教」 島 射撃ノ速度ハ如何

「島」 並射撃ノ尤モ迅速ナルモノ

「教」 島ノ意見ニ同意ノ者ハ銃ヲ舉クヨ (皆銃ヲ舉ク)

「教」 堀 其理由ハ如何

第九通

「堀」 密集隊ニ對スル故尤モ効力多キヲ以テナリ
次ニ密集隊ハ散開シテ停止セリ新兵ハ直ニ射撃ノ速度ヲ變
セリ

「教」 岡 射撃ノ速度ハ如何

「岡」 徐カ射撃

「教」 坂 距離ハ如何

「坂」 五百米突

「教」 徐カ射撃ニ同意ノ者ハ銃ヲ舉ケヨ (皆銃ヲ舉ケテ

同意ヲ表ス)

次ニ教官ハ新兵ヲ交代セシメ敵ノ散兵ヲシテ前進セシム則チ
目標大ナルヲ以テ新兵ハ直ニ射撃ノ速度ヲ増加シ停止スレハ
直ニ速度ヲ減ス此ノ如ク敵ノ一動作毎ニ一々列中ニ試問シ之

ヲ講評スルコトハ前例ノ如クシ遂ニ敵兵近接シテ近距離ニ連
シ急射撃及ヒ連發射撃ヲナスニ至ルハシ而シテ此ノ如ク一時
機毎ニ新兵ヲ交代スルヲ以テ結局ニ至ル時ハ遂ニ全部隊ヲシ
テ一順ノ動作ヲ爲シ終ルニ至ルヘシ

斯ノ如ク射撃ニ就テ綿密ニ且ツ適切ニ教練スルトキハ新兵ハ
防禦ニ於ケル戦闘ノ要領ヲ知得スルノミナラス目標ノ大小、
距離ノ遠近ニ依リ射撃速度ヲ變換スルノ要領ヲ了解スルヲ得
ヘキナリ

此教練ニ於テモ下士ヲシテ前面ニ呼出シタル新兵ノ傍ラニ在
リテ細部ノ修正ヲ爲スニ任シ教官タル將校ハ専ラ新兵部隊ニ
向テ説明及試問ヲ爲スニ任スルモノトス是レ全部隊ノ爲メ尤
モ有効ナル方法タルナリ

散兵教練第四演習

二百六

前回ノ野外演習ニ於テハ防禦戰闘ニ於ケル射撃ノ要領ヲ教練セリ依テ今回ノ演習ニ於テハ攻撃戰闘ニ於ケル射撃ノ要領ヲ教練スヘシ

攻撃ノ爲メ前進停止ノ動作ニ於テハ已ニ散兵教練第三演習ノ時ニ於テ之ヲ教示セリ故ニ此演習ニ於テハ單ニ各地區ニ停止スルノ後射撃スルノ要領ヲ教練スルヲ適當トス

之カ爲メニモ亦新兵掛將校ヲ以テ教官トシ假設敵ヲ設ケテ之ヲ實施ス左ニ其方法ノ概略ヲ述フヘシ

教官ハ演習スヘキ地ニ新兵ヲ集合セシメ所要ノ説明ヲナス其概略左ノ如シ

攻撃ノ爲メニハ成ルヘク敵ノ陣地ニ接近シテ射撃ヲ開始ス

ルヲ原則トス

射撃ハ確實ナル射撃界内ニアル敵ノ軍隊ヲ照準スヘシ

目標ハ成ルヘク高ク、深ク、廣ク且ツ密ナル者ヲ撰ムヘシ

射撃効力ヲ現ハス能ハサレハ決シテ應射スヘカラス

効力ナキ射撃ハ敵ノ志氣ヲ振起スルモノナリ

彈藥ノ補給ハ常ニ必要ナリ故ニ死傷者ノ彈丸ハ必ス之ヲ收

拾スヘシ

其他教官ハ軍友負傷シタル時ノ處置及自己ノ負傷セシ時ノ

處置其他前演習ニ於テ指示セシコトハ皆之ヲ應用スヘキコ

トヲ示シ説明終レハ各教育班ヨリ一名ツ、ノ新兵ヲ列外ニ

出シ左ノ事ヲ命ス

敵ハ彼方向ニアリ汝等散兵ハ彼點ヨリ此點マテ(約二三十

第九通

二百七

歩ノ間ノ間ニ於テ有利ナル地點ニ停止スヘシ
敵ヲ發見セハ適當ニ判斷シテ動作ヲ爲セ

此時下士ヲ新兵ノ占領スヘキ地區ニ配布シ直接ニ其動作ヲ修
正セシム

各兵ハ皆其位地ヲ占領セリ教官ハ左ノ問答ヲ爲ス

「教」 瀧ノ動作ニ不同意ノ者ハ銃ヲ舉ケヨ (銃ヲ舉クル
者四名)

「教」 關ハ其動作ヲナセ

「關」 ハ直ニ他ノ位地ヲ占領シタリ

「教」 畑ノ意見ハ如何

「畑」 關ニ同意ナリ此レ尤モ銃ノ効力ヲ現ハシ得ヘケレハ
ナリ

「教」 他ニ意見ハナキヤ (意見ノ異ナルモノナシ)

教官ハ之ニ依テ講評ヲナシ次ニ記號ヲ以テ敵ノ散兵ヲ現出セ
シム新兵ハ之ニ應シテ動作ヲ爲シ教官ハ又左ノ如キ問答ヲ爲
ス

「教」 澤 各兵ノ動作ニ不同意ハナキヤ

「澤」 敵ノ發見ヲ報告セサルハ不同意ナリ

「教」 谷 如何ニ報告スルヤ

「谷」 前面ニ敵ノ散兵發見ト呼フ

「教」 橋 谷ノ述ヘシ報告ニテ可ナルヤ

「橋」 前面敵ノ散兵五百米突ト呼フ

「教」 宜シ

「教」 楠・射撃ノ速度ハ如何

「楠」 徐カ射撃

「教」 宜シ

「教」 原 尙故徐カナル射撃ヲ爲スヤ

「原」 距離遠クシテ効力少キ故ナリ

此ノ如クシテ此地點ニ於ケル教練ヲ終レハ列兵ヲ集合シ次ノ地點ニ移リ前ト同一ノ要領ニ從ヒ先ツ新兵ヲシテ其位置ヲ占領セシメ其動作ヲ修正シ次ニ射撃ニ關スル動作ニ付キ各種ノ試問及講評ヲ與フ此ノ如ク一地區毎ニ同一ノ教練ヲ復行ス然ル後某位地ニ至ルヤ記號ヲ以テ敵ノ密集隊ヲ現出セシム新兵ハ直ニ其報告ヲ爲シ且之ニ應スルノ動作ヲ爲ス教官ハ左ノ問答ヲ爲ス

「教」 東 他ニ適當ノ報告ナキヤ

「東」 斜メ右ノ敵ノ密集隊四百米突ト唱フ

「教」 西 如何ナル速度ニ射撃スルヤ

「西」 並射撃

「教」 南ハ如何

「南」 急射撃

「教」 急射撃ニ同意者ハ銃ヲ舉ケヨ (銃ヲ舉クル者多シ)

「教」 宜シ

「教」 林其理由ハ如何

「林」 密集隊ニ對シテ十分効力アレハナリ

次ニ密集隊ハ隠匿セリ兵卒ハ射撃速度ヲ變セザルヲ得ス

「教」 森 射撃速度ハ如何

「森」 並射撃

「教」 宜シ

「教」 柴 理由ハ如何

「柴」 密集隊隠匿セル故ナリ

次ニ又他ノ地點ニ移リ右ノ要領ニ準シテ射撃速度及位地占領
方ヲ教練シ尙左ノ問答ヲ爲ス

「教」 谷 汝ノ隣兵ハ戰死セリ處置ナキヤ

「谷」 直ニ其彈藥ヲ收拾ス

「教」 坂 汝ノ隣兵ハ負傷シ歩行スル能ハス如何スルヤ

「坂」 其彈藥ヲ取ル

「教」 岡 數多ノ彈丸アレハ如何シテ携帶スルヤ

「岡」 雜糞或ハ袴等ニ容ル

「教」 島 此負傷者ハ護送シ得サルヤ

「島」 將校ノ命令ニアラサレハ護送スルヲ得ス

「教」 星 汝ハ脚ニ輕傷ヲ受ク歩行スルコト困難ナリ如何
スルヤ

「星」 彈丸ヲ戰友ニ交付シ銃ヲ携ヘテ繃帶所ニ至ル

「教」 新 繃帶所ハ如何ニシテ識別スルヤ

「新」 國旗及赤十字ノ標識アリ

此ノ如ク諸種ノ教練ヲ爲シ懇切丁寧ニ説明ヲ與ヘ逐次前進シ
テ敵ニ近接シ遂ニ急射撃連發射撃ヲ施行スルニ至ルヘシ
最後ニ至レハ或ハ敵ヲ退却セシメテ其追撃射撃ノ要領ヲ教ニ
或ハ敵ノ陣地ニ突入シテ之ヲ擊攘スルノ動作ヲ爲サシム
此ノ如ク教練シ終レハ新兵ヲシテ攻撃ニ於ケル射撃ノ要領ハ
稍之ヲ理解セシムルヲ得ヘシ

新兵ニシテ以上四回ニ於テ實施セシ散兵教練ノ各動作ニ熟練
スルニ至レハ此レヲシテ行進シ停止シ射撃スルノ動作ヲ合一
シテ施行セシムルヲ得ヘシ茲ニ至リテ始メテ新兵ニ散兵各個
ノ動作ヲ教練シ終リタル者ト云テ得ヘク又新兵モ明瞭ニ此動
作ヲ了解シ得タル者ト云フヘキナリ

第五 豫行演習

豫行演習ニ於テ標的ハ成ルヘク之ヲ實距離ニ設置スルヲ利益
トス

故ニ本週ニ於テハ成シ得レハ射撃場ニ於テ實距離ニ標的ヲ設
置シ年度射撃ト全ク同一ノ要領順序ニ從テ實施スヘシ然レト
モ若シ射撃場ニ於テ演習スルヲ得サル時ハ練兵場ノ一隅ニ於
テスルモ可ナリ

要スルニ實際ニ於ケル距離ニ於テ其照準ノ困難及顯象ノ變化
ヲ知ラシムルハ新兵ノ射撃上大ニ効カアル教練ナリトス

第十週ニ於ケル演習ノ課目

- 一 四人正面ノ分列行進
 - 二 射撃 (號令ニテ連發ヨリ單發ニ及ヒ單發ヨリ連發ニ移ルノ動作)
 - 三 襲歩及突撃
 - 四 敬禮 (上官ヨリ物ヲ受ケ及ヒ上官ニ物ヲ呈スル時ノ動作)
 - 五 野外演習 (斥候勤務)
 - 六 豫行演習 (連發ニ於ケル射撃)
- 第一 四人正面ノ分列行進

新兵已ニ分隊教練ニ移ルノ前ニ至レハ成ルヘク各個教練ノ諸

運動ヲシテ分隊教練ト密着セシメン爲メ先ツ二人乃至四人ヲ合シテ齊一ニ動作セシムルノ必要ナルハ已ニ述ヘタルカ如シ實ニ全教育班ノ各人ヲシテ齊一ノ動作ヲ爲サシメンニハ各個ノ教練ヲ以テ十分ノ修正ヲ爲スノミニテハ足レリトセス反テ數人ヲ集メテ動作セシムル時ニ於テ初メテ其不齊ヲ發見スルコト在ルモノトス

本週ニ至レハ已ニ分隊教練ニ移ルノ時期ニ近ツキタルヲ以テ前述ノ要旨ニ適合スル如ク教練スルヲ要ス左ニ其方法ヲ述ヘントス

隊形及説明

新兵ハ皆之ヲ集合シテ一部隊トナシ古參ノ下士之ヲ指揮シ四列側面ト爲サシメ教官ハ左ノ説明ヲ爲ス

各列ハ先頭ヨリ六歩ノ距離ヲ取り前進シ某上等兵ノ處ニ至
レハ號令ナク頭右ヲ爲シ教官ニ注目スヘシ某上等兵ノ處ニ
至レハ頭ヲ正面ニ爲セ

實施

新兵ヲシテ停止間擔銃ヲ爲サシメ次ニ足踏ヲナサシム或手ハ
足踏ヲ爲スト同時ニ奏樂ヲ始ム下士ノ號令ニテ先頭ハ行進ヲ
起シ以下順次ニ六歩ノ距離ヲ得ルニ從ヒ號令ナク前進ス
此時教官ハ助手タル下士上等兵ヲ其行進線上ニ配布シ之ニ各
種ノ分擔ヲ命シテ修正ニ任セシム則チ某軍曹ハ擔銃ノ動作某
軍曹ハ停止ノ動作某軍曹ハ左手ノ振方某上等兵ハ歩法ノ修正
ヲ爲スエトヲ命スルカ如シ而シテ教官ハ頭右ノ姿勢及注目ノ
如何ヲ修正ス

此ノ如クスルトキハ新兵ハ一回ノ行進間ニ於テ同時ニ各部ノ
修正ヲ受クルヲ得ルモノトス

第二 射擊

村田連發銃使用上ニ於テ單發ヨリ連發ニ及ヒ連發ヨリ單發ニ
移ルノ動作ハ尤モ熟練スルヲ要スルエトハ前已ニ述ヘタル如
シ之レカ爲メ前週ニ於テ號令ナク各個ニ付キテ確實ニ此ノ動
作ノ順序ヲ了解セシメタリ故ニ本週ニ於テハ更ニ號令ニ應シ
迅速確實ニ其動作ヲ爲ス如ク教練ス

其方法ハ概テ前ニ述ヘタル要領ニ從ヒ最初ハ一人ツ、之レヲ
實施シ稍之レニ熟スルニ至レハ二人乃至四人同時ニ號令ヲ以
テ施行セシム

第三 變歩及突擊

襲歩ハ操典ニ示セル如ク歩調ヲ取り百二十歩ノ速度ヲ以テ行進スル者トス然シテ新兵ヲシテ速歩ノ要領ヲ確實ニ保持シ百二十歩ノ速度ヲ以テ行進セシメントスルハ大ニ熟練ヲ要スヘキコトニシテ殊ニ各個教練ニ於テ十分之レニ精熟スルニアラサレハ部隊教練ニ於テ隊伍ノ嚴肅ヲ維持スルコト能ハサルヘシ

本週ニ至レハ速歩ノ行進ニ於テハ其速度及要領ニ於テモ稍正確ニ實施シ得ルニ至ルヘキヲ以テ遂ニ其速度ヲ増シテ百二十歩ニ至ラシメ以テ襲歩ノ教練ヲ爲スヘキナリ又襲歩ハ通常敵手ノ奏樂ト共ニ行進スル者ナルヲ以テ時々中隊ノ敵手ヲシテ襲歩ノ譜ヲ奏セシメ之レト共ニ行進スルコトヲ演習スヘシ其方法及要領ハ速歩ト同一ニ施行スルモノトス

突撃ノ動作ハ銃ヲ提クルト同時ニ駈歩ニ移ルモノナルヲ以テ此教練ノ爲メニ其歩法ハ格別ニ教練スルノ必要ナシ唯其行進間ニ於ケル銃ノ保持及停止ノ時ニ於テ銃ヲ構フル姿勢ノミヲ教練スルヲ以テ足レリトス而シテ其方法及要領ハ前諸教練ノ例ニ準シテ之レヲ知ルヲ得ヘキヲ以テ別ニ之レヲ陳述セス唯襲歩ヨリ突撃ニ移ルノ動作ハ之ヲ教練スルコト必要ナリトス之レ部隊教練ニ於テハ屢々生スル場合ナルヲ以テナリ左ニ其方法ノ概略ヲ述フヘシ

隊形及説明

新兵ヲ一列横隊トナシ着剣ヲ爲サシメ教官ハ左ノ説明ヲ爲ス各兵ハ十歩ノ距離ヲ取り襲歩ヲ以テ前進、第一標兵ノ處ニ至レハ突撃ニ移リ第二ノ標兵ノ所ニ至レハ停止シテ構銃ヲ

爲スヘシ(教官ハ其模範ヲ示ス)

實施

新兵ハ教官ノ指示ノ如ク動作ス第一標兵トシテ一人ノ上等兵ヲ立タシメ此上等兵ハ銃ヲ提クル動作ヲ修正シ第二標兵トシテ又他ノ一人ノ上等兵ヲ立タシメ此上等兵ハ停止及銃ヲ携フル動作ヲ修正ス教官ハ或ハ彗歩ノ動作ヲ修正シ或ハ突撃ノ動作ヲ修正ス

第四 敬禮

本週ニ於テハ新兵ノ物品若クハ辭令書ヲ上官ヨリ受クル時及ヒ物品ヲ上官ニ呈スルノ動作ヲ教練セント欲ス兵卒ノ上官ニ對スルヤ其動作ノ嚴正ニシテ且謹慎ナル、キハ勿論ニシテ決シテ疎暴卑野ノ舉動アルヘカラス是レ實ニ軍人

タル者ノ威嚴ニシテ又實ニ軍紀ノ標章ナリ今此演習ヲ實施スル亦此趣旨ヲ完全ニスルノ目的ニ外ナラス

此動作ニ於テハ室外ニ於ケルト室内ニ於ケルトノ二様アリ而シテ室内ノ動作ハ雨天等ノ爲メ練兵場ニ出テ、演習スルコト能ハサル場合ニ於テ之レヲ教練スルヲ可トス又徒手ノ場合ト執銃ノ場合トアリ此二様ノ動作ヲモ各別ニ教練スルヲ要ス其方法ノ如キハ別ニ之ヲ述フルノ必要ナカルヘシ是レ概テ前諸演習ニ準シテ施行シ得ヘケレハナリ唯此時教官ハ新兵ヲシテ上官ニ對シテ最初ニ停止スヘキ位置、其姿勢、徒手ノ時ハ舉手注目ノ動作、執銃ノ時ハ棒銃ノ操法、次ニ物品ヲ受クル時ノ動作、退去ノ動作、等ヲ知得セシメ以テ其動作ハ嚴正ニシテ疎暴ナラス謹慎ニシテ卑屈ナラス一見軍紀ノ確立セル具

個ノ軍人タル威容ヲ備ヘシムルニアリ

第五 斥候勤務第三演習

本週ニ於ケル此ノ演習ノ目的ハ前週ノ斥候勤務第一、第二、演習ニ於テ出發ノ處置及行進法ニ稍熟練スルノ後尙進テ此勤務ノ尤モ緊要ニシテ且ツ尤モ困難ナル敵兵ヲ發見セシトキ斥候ノ爲スヘキ處置ヲ教練スルニアリ

敵兵ヲ發見セシ瞬間ニ於テ斥候ノ爲スヘキ動作タル言辭ヲ以テ之ヲ云ヒハ甚タ單簡ナル者ノ如シト雖モ此瞬間ノ時ニ處シテ適當ナル動作ヲ爲シ得ルニ至ラシムルハ大ニ熟練ヲ要スルヲナリトス何トナレハ若シ此時ニ於テ其處置ヲ誤リ或ハ沈着ヲ失スル如キコアラハ獨リ敵狀ヲ偵知シ得サルノミナラス或ハ卒然駈セ歸リテ甚ダシキ誤報ヲ爲スモ亦知ルヘカラサレハ

ナリ故ニ綿密ニ之ヲ教練シ十分之レニ精熟セシメ此ノ動作ニ於テハ殆ント新兵第二ノ天性トナリテ敢テ思慮ヲ要スルコトナク知ラス踊ラスノ間適當ノ處置ヲ爲シ得ル如クニ養成スルヲ要ス

此瞬間ノ動作ハ前週前哨勤務ノ時ニ於テ教練セシ歩哨ノ始メテ敵ヲ發見セシ時第一ニ取ル可キ處置ニ異ナラサルナリ則チ

第一 其身ヲ隱蔽スルコト

第二 照尺ヲ裝スルコト

第三 他ノ斥候兵ヲ集メ或ハ之ニ通知シテ共ニ敵狀ヲ偵察スルコト

左ニ此教練ノ方法ヲ畧述スヘシ

教官ハ此演習ノ爲メ部隊ヲ練兵場（最初ニ於テ練兵場ノ如キ

開路地ニテ演習スレハ修正容易ナルノ便益アリノ一隅ニ集
合セシム

第一ニ下士ノ指揮スル假設敵ヲ差遣ス其ノ要領ハ前哨勤務ノ
時ニ於テ述ヘシ者ニ同シ其他助手ノ下士ヲ大約斥候ノ停止ス
ヘキ地點ニ配布シテ直接ノ修正ニ任セシム

次ニ假設敵ノ設備終ルノ間概テ左ノ如キ説明ヲ爲ス

斥候ハ敵ヲ發見スルヤ直ニ潛匿シ敵ニ覺知セラレサルヲ勉
ム可シ是レ大ニ我後來ノ運動ニ自由ヲ得セシムルモノトス
斥候ハ成ルヘク戦闘ヲ避クヘシ故ニ止ムヲ得サルニアラサ
レハ射撃スヘカラス

斥候ハ確實ニ敵ヲ觀察スヘシ則チ敵ハ斥候ナルカ部隊ナル
カ或ハ哨兵ナルカヲ觀察スニアリ

敵ノ斥候已ニ我ヲ發見セシヤ或ハ未タ之ヲ知ラサルヤヲ察
知スルヲ要ス之レ後來ノ動作ニ於テ大ニ關係アレハナリ

斥候ハ共同動作ヲ要ス敵兵發見ノ後ハ殊ニ然リ故ニ先ツ敵
ヲ發見セシモノハ必ラス之ヲ其長ニ知ラシメ以テ此後ノ指
揮ヲ受クヘシ

假設敵ノ設備終レハ新兵三名ヲ以テ斥候トナシ任務ヲ命シテ
之ヲ差遣ス其差遣ノ要領及此斥候ノ動作ハ凡テ第一、第二、
演習ニ準ス而シテ斥候ハ直ニ出發ヲ爲ス教官ハ潛カニ記號ヲ
以テ敵ノ斥候或ハ部隊ヲ現出セシム

斥候ハ之ヲ發見スルヤ前ニ説明シタル要領ニ從ヒテ動作シ教
官ハ適當ノ時小笛ヲ以テ其斥候ヲ停止セシム此時其附近ニア
ル下士ハ直ニ其停止ノ位置ニ付キテ所要ノ修正ヲ爲シ教官ハ

列兵ニ向ヒ其斥候ノ動作ニ依リテ批評ヲ爲サシメ及之ヲ試問スル等前屢々施行シ來リシ者ニ等シ例ヘハ左ノ如シ

「教」 右方ノ斥候兵直ニ潜伏セサリシハ不可ナリ斥候長ニ知ラシムルハ潜伏シテ後罷號ヲ以テスルヲ可トス

「教」 林 斥候長ノ左ノ斥候兵ヲ招クハ何ノ爲メカ

「林」 後來ノコトヲ指示スル爲メナリ

「教」 森右ノ斥候兵一タヒ潜伏シタル後ノ動作ニ於テ不問意ノ點ナキカ

「森」 直ニ其長ノ所ニ往キ指揮ヲ受クルヲ可トス

「教」 杉 敵ノ騎兵ニ至ル距離如何

「杉」 四百米突

「教」 補射撃スルヲ適當トスルヤ

「補」 然リ

「教」 宜シ

「谷」 谷其理由ハ如何

「谷」 射撃ノ効力アルヲ以テナリ

此ノ如クシテ後チ教官ハ其敵ヲ隱匿セシメ第一ノ斥候ハ之ヲ列中ニ歸ラシメ次ノ新兵ヲ以テ斥候ト爲シ之ヲ差遣シ前ト同一ノ要領ニ從ヒテ之レヲ教練ス逐次此ノ如クシテ遂ニ列兵ヲシテ一順此運動ヲ實施セシメ教官ハ毎回列兵ニ向ヒテ其ノ批評ヲ爲サシメ之ヲ修正ス

此ノ演習ノ目的タル新兵ノ最初敵ヲ發見セシ時第一ノ處置ヲ教練スルニアルヲ以テ斥候ノ敵ヲ發見スルノ後ハ永ク運動セシムルコトナク直ニ之ヲ交代セシメ以テ僅少ノ時間ニ於テ多

敵ノ新兵ヲ動作セシムルコトヲ謀ル可シ

新兵ニシテ此演習ニ熟練シ正當ノ動作ヲ爲シ得ルニ至レハ其精神ハ沈着シ此後ニ於テ如何ニシテ敵狀ヲ偵察スヘキヤ如何ニシテ自ラ動作スヘキヤヲ思考スルノ猶豫ヲ得ヘク從テ適當ノ處置ト適當ノ判断トヲ爲シ得ヘキヤ明カナリ而シテ此判断タルヤ斥候勤務ニ於テ尤モ緊要ナル性能ニシテ實ニ其任務ヲ達スルト否トノ岐路ナリトス若シ此演習ニシテ不十分ナランカ新兵ハ狼狽自失途ニ其處置ヲ誤リ全ク斥候ノ任務ヲ盡クス能ハサルニ至ルヘシ

斥候勤務第四演習

此ノ演習ノ目的ハ前已ニ述ヘタル如ク斥候敵ニ遭遇セシ後ノ處置及行進法ヲ教練スルニアリ而シテ前週以來施行セシ斥候

勤務第一、第二、第三ノ演習ニ於テ斥候ノ出發、其行進、敵ノ發見之ニ應スル動作ヲ教練セシヲ以テ本週ニ於テ此演習ヲ實施シ終レハ斥候各時機ニ於ケル動作ノ教練ヲ終リタル者ト云フヲ得ヘシ

此教練ニ於テモ前諸演習ニ於ケル如ク新兵掛將校教官トナリ假設敵ヲ設ケテ演習スルモノトス左ニ其方法ノ概略ヲ述フ
教官ハ新兵ニ向ヒ所要ノ説明ヲ爲スコト概テ左ノ如シ

斥候敵ヲ發見スルヤ直ニ隱匿シ共同シテ敵狀ヲ視察スヘキ
コトハ前演習ニテ了解セリ而シテ此後斥候ハ如何ニ處置スヘキカヲ決心セサルヘカラス
則チ停止シテ報告スヘキヤ、尙前進シ得ヘキヤ、或ハ退却セサル可カラサルヤ、ノ決心ヲ爲スコト是レナリ

此ノ決心ハ其任務ト敵狀トニ關シテ異ナル者トス則敵狀ニ
觀キテハ先ツ第一ニ敵兵我レヲ發見セシヤ否ヤヲ觀察スル
ヲ要ス若シ敵兵我ヲ發見シタルトキハ前進ヲ續行シ或ハ任
務ヲ完フスルコト困難ナルヘシ此ノ時ニ於テ任務上尙前進
スルヲ要スルトキハ陽ニ退却シテ後他ノ方向ヨリ更ニ前進
スルヲ勉ムヘシ

若シ敵兵我レヲ發見セザルトキハ勉テ其身ヲ隱匿シ敵ヲシ
テ通過セシメ然ル後其任務ヲ全フスル爲メ前進スヘシ
斥候優勢ナル敵兵ニ遭遇セル時ハ其兵力、兵種、及行進方
向ヲ觀察スヘシ

若シ敵ノ行進我哨所ヲ攻撃スルカ或ハ不意ニ衆多ノ敵兵ニ
遭遇セハ急射撃ヲ以テ之ヲ報告シ尙一名ハ歸リテ之ヲ報告

スヘシ

若シ敵ノ歩哨ノ如キ者ナレハ停止シテ十分其哨所ノ狀況ヲ
偵察シ然ル後報告スヘシ

斥候ハ一途ニ命セラレタル任務ヲ完全ニスルコトヲ勉ムヘ
シ故ニ途中ニ於ケル障礙ハ成ルヘク之ヲ避クルヲ要ス

又一タヒ敵ニ遭遇スルヤ其敵已ニ隱匿スルモ一層警戒ヲ嚴
ニスルヲ要ス之カ爲メ躍進ノ距離ハ敵ヲ發見セサル前ヨリ
ハ一層之ヲ短縮スルヲ要ス

教官ハ此ノ如ク説明シ終レハ任務ヲ命シテ斥候ヲ差遣シ記號
ヲ以テ敵ヲ現出セシメ之ニ應スル動作ヲナサシム

又教官ハ完全ニ此演習ノ目的ヲ達スル爲メニハ假設敵ヲ設ク
ルニ當リ成ルヘク前ニ説明セル各種ノ狀況ヲ現出セシムル如

ク設計シ斥候ヲシテ適當ニ判断シ適當ニ動作シ得ルヤ否ヤヲ
 驗スヘシ則チ假設敵ヲシテ或ハ複哨ヲ現出セシメ、或ハ斥候
 ノ内我斥候ヲ知ラサル動作ヲ爲サシメ、或ハ部隊ヲシテ他ノ
 方向ニ行進セシメ、或ハ我方向ニ前進セシムル、等ノ動作ヲ
 爲サシメ之レニ應シテ斥候ノ處置ヲ適當ナラシムルニアリ
 此演習ニ於テ適當ノ進退動作ハ一ニ其受ケタル任務ニ依テ異
 ナル者ニシテ教官ハ之レニ依テ適當ノ講評ヲナスヲ要ス之レ
 任務ヲ全フセシムル爲メニハ最モ緊要ナルコトナリトス又一
 動作毎ニ列中ニ試問シ其理由ヲ云ハシメ之レヲ講評シ次ニ新
 兵ヲ交代シ更ニ動作セシムル等ノコトハ前演習ニ於ケルカ如
 シ
 其一例ヲ舉クレハ左ノ如シ

〔東〕 東 彼ノ斥候ノ長ク一地ニ潜伏シアルハ何ノ爲メカ
 敵兵未ダ我ヲ知ラサル故彼レヲ通過セシメシメ爲メナ

〔西〕 西 敵兵通過スレハ如何スルヤ

〔西〕 再ヒ任務ノ爲メニ前進ス

〔南〕 南 斥候ノ躍進ニ付キ意見ナキヤ

〔南〕 躍進ノ距離遠キト思フ

〔星〕 星 躍進遠クハ何故害アルヤ

〔星〕 敵ニ近接シアルヲ以テ危険ナリ

〔谷〕 谷 彼ノ斥候退却スルハ適當ナルヤ

〔谷〕 適當ナリ

〔教〕 其理由ハ

〔谷〕 敵ニ發見セラレタル故其方向ニ進ム能ハサレハナリ
 〔教〕 坂 彼ノ斥候ノ射撃セシハ適當ナルヤ
 〔坂〕 適當ナリ之レ不意ニ敵ニ遭遇セシ故ナリ
 〔教〕 岡 彼ノ敵兵ハ何ナリト判断スルヤ
 〔岡〕 敵ノ歩哨ナリト思フ
 〔教〕 堀 斥候ノ一人直ニ歸リ報告セシニ同意ナルヤ
 〔堀〕 不同意ナリ
 〔教〕 其理由ハ如何
 〔堀〕 敵ノ歩哨ナレハ尙十分偵察ノ後報告スルヲ可トス
 〔教〕 島 彼ノ斥候報告セサルハ適當ト思フヤ
 〔島〕 適當ト思フ
 〔教〕 宜シ

〔教〕 堀 其理由ハ如何
 〔堀〕 任務上此ノ如キコトハ報告スルニ及ハス
 〔教〕 關 今ノ報告ニ不同意ノ點アレハ述ヘヨ
 〔關〕 敵ノ行進方向ヲ報告スルヲ可トス
 〔教〕 澤 他ニ不同意ノ點ナキヤ
 〔澤〕 敵ヲ見シ時間ヲ報告スルヲ可トス
 〔教〕 新 敵ノ斥候ヲ見テ一々報告スルヤ
 〔新〕 任務ニ依リテ報告ノ必要ナキコトアリ
 此教練ハ新兵稍斥候ノ諸動作ニ熟練スルノ後實施スヘキ者ナ
 ルヲ以テ一動作ノ時機ハ前演習ニ比シテ稍永クスルヲ可トス
 然レトモ新兵若シ甚シキ誤リヲ爲セシトキハ之ヲ停止セシメ
 列中ノ新兵ニシテ適當ノ意見ヲ有スル者ヲ求メ之ヲシテ再々

同一ノ動作ヲ爲サシムヘシ此ノ如クスル時ハ列中ノ新兵ハ
絶ニス熱心注意シテ諸動作ヲ研究スヘキヲ以テ教練上大ニ有
利ナル者トス

以上述ヘタル四演習ノ要領ニ從ヒテ演習ヲ實施セハ斥候ノ各
時機ニ於ケル諸動作ハ綿密ニ之ヲ教練シ得ルナラシ故ニ新兵
ニシテ此四演習ニ熟練セハ則チ斥候勤務ニ付テハ十分理解シ
得タルヲ知ルニ足ル然ル時ハ孰レノ時、孰レノ場合、ニ於テ
モ之ニ任務ヲ命ジ、之ヲ出發セシメ、之ヲ行進セシメ敵ヲ發
見スルヤ適當ニ處置シ、確實ニ其任務ヲ盡ステ得ヘシ此ノ如
クニ至リテ始メテ軍ノ耳目タルニ恥サルモノト謂フヘキナリ

第六 隊行演習

本題ニ於テハ前編ニ於テ述ヘタル如ク年度射撃ノ要領ニ據リ

テ連發射撃ノ方法ヲ實施セントス則チ六十秒時ニ於テ八發ノ
連發射撃ヲ行ハシムルニアリ此時教官ハ二十分一橢圓的ヲ用
ヒ其照準ヲ點檢スヘシ何トナレハ連發射撃ト雖モ照準ハ必ス
正確ナルヲ要スレハナリ

且此教練ニ於テハ新兵ヲシテ主トシテ連發射撃ニ於テ銃ヲ肩
ニ接スヘキ節度ヲ了解セシムルニ注意スヘシ未熟ノ新兵ニ在
テハ徒ラニ速度ヲ急ニスルコトノミヲ顧慮スル爲メ反テ過早
ニ矢スル者アリ教官ハ能ク其緩急ヲ知ラシムルヲ緊要トス

結 論

新兵教育ニ於テ各個教練ノ爲メ使用スヘキ時日ハ約十週間ヲ適當トスルナラン何トナレハ此時日ヲ有スレハ稍各個ニ於ケル各種ノ動作ヲ教育シ終ルヲ得ヘク又若シ各個教練ノ爲メ是ヨリ以上ノ時日ヲ使用スル時ハ部隊教練ニ使用スヘキ時日ヲ減少スルヲ以テ教育ノ結果ハ反テ良好ナラサレハナリ

余ハ此問題ニ付キ以上十週日ノ日課ヲ説述セルヲ以テ今ヤ此ノ研究ヲ終ルノ時期ナリトス而シテ余ハ此十週間ニ於テ新兵各個ノ教練トシテ實施スヘキ課目ノ大概ハ之レヲ説述シ終リタリト信スルナリ是レヨリ以後ハ部隊教練ノ間ニ於テ屢々此教練ノ復習ヲ爲シ以テ益々整正確實ニ動作セシムハキナリ

以上述フル所ニ依レハ各個教練ノ課目タル其數甚タ衆多ニシテ從テ其實施ニ於テモ如何ナル順序ト如何ナル方法トヲ以テスルカハ各種各様ニシテ教官タル者ノ大ニ思慮ヲ要スヘキ者トス就中散兵、歩哨及斥候ノ勤務ハ兵卒ノ爲メ尤モ重要ナルコトナルヲ以テ十分ノ研究ヲ以テ適切ナル方法ヲ求メ以テ完全ニ之ヲ教育スルハ甚タ緊要ナルコトニシテ又大ニ價値アルコトナリトス余ハ信ス教官ニシテ此重要ナル教練ヲ尤モ適切ニ實施シ得ルノ人ハ已ニ其教官タル職務ノ大部分ヲ盡シタル人ナリト

要スルニ教育方法適切ナル者トハ他ナシ假令理解力ニ乏シキ新兵ト雖トモ容易ニ了解シ得セシムヘキ方法ヲ探求スルニ在リ之レカ爲メニハ一ニ教育ノ原則タル簡ヨリ繁ニ入ルノ順序

ニ從フモノニシテ假令ハ射撃教練ヲ爲スニ當リ最初ヨリ新兵
 ナシテ實彈ヲ取テ射撃セシメントカ決シテ其命中ヲ得サルノミ
 ナラス其反撞ニモ亦堪ユルコト能ハサルヘシ然ルニ現時教育
 スル順序ノ如ク先ツ身軀ノ姿勢ヲ教エ次ニ托架ヲ以テ照準ノ
 要領ヲ教エ次ニ銃ヲ執テ姿勢ヲ教エ終ニ發射ノ要領ニ及フ等
 各節各動ニ區分シ順次之ヲ教練スルヲ以テ新兵ハ知ラス謂ラ
 スノ間劇烈ノ反撞ニ堪エ確實ノ命中ヲ得途ニ良好ノ射手タル
 ニ至ルナリ其他裝填充填ノ動作ニ於ケル銃ノ操法ノ動作ニ於
 ケル皆此要領ニ從ヒ綿密ニ之レヲ教練シ以テ精巧ノ域ニ達ス
 ルモノトス

銃ノ使用ニ於テ已ニ此ノ如シ况ゾ尤モ重大ナル任務則チ歩
 哨斥候、散兵等ノ動作ニ於テハ殊ニ右ノ要領ニ準シ漸次教練

ヲ實施シテ其基礎ヲ確固ニシ然ル後始メテ之ヲ實際ニ應用セ
 ルヲ勉メサル可ラス若シ之ニ反シテ未タ其基礎堅固ナラス其
 姿勢ノ確實ナラサル者ニ向ヒ直ニ重大ノ任務ヲ課シ以テ良好
 ノ結果ヲ求メシメントスルハ猶新兵ヲシテ直ニ實彈ヲ發射セ
 シメントスル者ニ齊シク決シテ好果ヲ奏スル能ハサルヘシ
 以上十週間ニ於テ余ノ説述シタル方法ハ全く此旨趣ニ依ル者
 ニシテ各動作ニ於テ多クノ節度ニ區分シ順次一舉動ツ、ノ教
 練ヲ爲シ以テ簡ヨリ繁ニ入ルノ手段ヲ取レリ而シテ此區分タ
 ル益々之ヲ多クスレハ益々新兵ヲシテ了解シ易カラシムル者
 ナルヲ以テ後來一層ノ研究ヲ以テ尙適切ノ方法ヲ得ハ其益ス
 ル所蓋シ少々ナラサルヘシ然レトモ余ノ以上説述スル所ハ單
 ニ各種ノ教練ニ於テ最初ニ取ルヘキ方法ヲ示セルノミ其後如

何ニ復習シ如何ニ訓練スルカハ尙數多ノ方法手段ナカルヘカ
ラス此事タル決シテ一篇ノ論說ヲ以テ能ク記述シ盡スヘキニ
アラス故ニ更ニ之ヲ細說スルコトヲ止メ左ニ唯一ニ注意スヘ
キ條件ヲ述ヘ以テ研究ヲ終ラントス

第一教練間前週ニ教育セシコトハ次週以下ニ於テ復習スヘキ
ハ勿論ニシテ之レカ爲メ或ハ號令ヲク或ハ號令ヲ用ヒ或ハ各
個ニ或ハ二人以上ヲ合テ之ヲ施行シ以テ益々其動作ヲ確實ニ
スルヲ計ルヘシ前ニ論スル如ク最初號令ヲ用ヒスシテ教練ス
ルノ利益アルハ決シテ僅少ナラスト雖然レトモ號令ヲ以テ嚴
肅ナル軍紀ヲ養成スルモ亦甚タ緊要ナルコトヲ知ルヲ要ス何
トナレハ指揮官ヨリ下ス號令ノ下ニ於テハ水火ト雖之ヲ避ク
サルノ習慣ヲ養成スルハ各個教練ノ時ヨリ已ニ緊要ナルコト

ナルヲ以テナリ又各個ヲ以テ實施スル教練ハ尤モ綿密ニ修正
スルヲ得ルノ利アリト雖然レトモ二人以上ヲ合スル教練モ亦
能ク他ノ欠點ヲ發見スルノ利益アルコトヲ顧慮スヘシ要スル
ニ教官タル者ハ彼是折衷斟酌シテ適當ニ配合シ適當ニ實施シ
以テ諸動作ヲ整正確實ニ至ラシムルヲ期スヘキナリ

第二各個教練ハ部隊教練ノ基礎タルヘキ者ニシテ決シテ各個
教練ト云フ特殊ノ教練アルニアラス故ニ新兵已ニ各個教練ヲ
終ルノ時期ニ達スレハ其各個ノ動作ハ全ク部隊教練中ニ於テ
ル各兵卒ノ動作ト同一ナラサルヘカラス

然ルニ往々已ニ熟練ノ兵卒ト雖各個教練ヲ爲スニ當リテハ故
ヲニ舉動ヲ遅クシ其目的單ニ正確ニノミ施行スルヲ以テ足レ
トトスル者アルヲ見ル此ノ如キハ大ニ此教練ノ趣旨ヲ誤解ス

ル者トス若シ果シテ此ノ如ク熟練ノ後猶ホ各個教練ノ時ノミ
 殊更ニ未熟者ノ時ニ行フ如キ動作ヲ爲ス如キコトアラバ此教
 練ハ獨リ部隊教練ノ基礎タルヲ得サルノミナラス全ク特殊ノ
 者トナリ各個教練タル眞ノ主旨ヲ達スル能ハサルヘキナリ
 第三教練ノ課目ニ於テ前ニ列舉スル所ノ如キハ甚ク複雑ナル
 ヲ感スルナラン然レトモ新兵ノ教育タル要スルニ一般ノ壯丁
 ヲ教育シテ一個完全ノ軍人ト爲スニアリ從テ其教練ノ課目モ
 亦此企望ヲ達スルヲ以テ目的トセサルヘカラス然ル時ハ獨リ
 操典及ヒ教範ニ規定シアル諸動作ヲ教練スルノミヲ以テ足レ
 リトセス此レト同時ニ諸勤務及ヒ單獨ノ時ニ於ケル諸動作モ
 亦教練スルヲ要スヘシ故ニ其課目ノ複雑ナルハ又免ルヘカラ
 サル所ニシテ反テ此課目ノ數多ナルハ教育ノ綿密ナルヲ當ル

ニ足ル其他課目ノ種類ハ新兵理解力ノ程度ニ應シテ大ニ其趣
 ヲ異ニスヘキ者ニシテ其程度益々低キニ從テ益々其課目ヲ數
 多ナラシメサル可ラス何トナレハ能ク理解スル新兵ニアリテ
 ハ一回ノ説明ヲ以テ足レリトスル細事ト雖理解力乏シキ新兵
 ニアリテハ皆之ヲ實際ニ付テ教練スルノ必要ヲ生スヘクレハ
 ナリ然レトモ余ハ課目ノ増加ハ決シテ之レヲ忌ムコトナク寧
 ロ兵卒各個人ノ行爲ニ於テハ些細ノ事ト雖トモ必ス實際ニ付
 テ之レヲ教育スルヲ以テ適當ナル者ト信スルナリ
 故ニ若シ教官ニシテ兵卒ノ諸勤務及單獨ノ行爲等ニ於テ實際
 ニ於テ之ヲ教育スルコトナク唯一場ノ説明ノミヲ以テ已ニ教
 育ヲ終リタル者ト爲ス如キハ大ニ其誤謬タルヲ忠告スルモノ
 ナリ何トナレハ此ノ如キ教育法ニ依テ養成セラレタル新兵ニ

付キ其動作ヲ觀察スレハ多クノコトハ皆實行シアラサルヲ發見スルコトアレハナリ此ノ如キハ其實果シテ孰レニ歸スヘキヤ此レ全ク教官ノ實際ニ於テ教育セサルノ罪ニシテ決シテ新兵ヲ咎ムヘキモノニアラサルヘシ故ニ教官ニシテ新兵ノ動作ヲシテ細事ト雖トモ一ノ欠點ナキニ至ラシメテ欲セハ假令外見的不必要ナルカ如キ細事ト雖トモ必ス一回ハ實行ヲ以テ之レヲ教育スヘシ然ル時ハ新兵ノ之レヲ理解スルコト容易ニシテ從テ之レヲ實行スルコト亦確實ナルヲ得ヘシ然レトモ此ノ如キハ或ハ怜悯ナル新兵ノ爲メニハ不必要ノ如キ感アルヘシト雖トモ元來教育ノ實施ハ程度ノ低キ者ヲ標準トスヘキハ原則ニシテ此標準ニ依ル時ハ怜悯ナル新兵ノ爲メニハ益々確實ニ實行セシメ得ヘク低度ノ新兵ハ之レカ爲メ一ノ過誤ナキ

●至ラシムルヲ得ヘキナリ

現レヤ練兵場ハ單ニ操典教範等ニ規定セラレタル動作ノミヲ教練スルノ場所ニアラス一個ノ軍人ヲ養成スルノ場所タルナリ則チ勤務ノコト行爲ノコト敬禮ノコト一トシテ教練ノ課目タラサルハナシ又室内ハ單ニ新兵ノ勤務行爲敬禮等ノミ修正スヘキノミニアラス必ス本日練兵場ニ於テ教練セシ諸動作ハ確實ニ之レヲ實施セシメサルヘカラス此ノ如ク演習ト勤務トヲ合一ナラシメ練兵場ト室内トヲ相應セシメ表裏相合シ内外相應シ綿密深切ニ之レヲ修正教育シ以テ新兵ヲシテ完全ノ軍人タルニ至ラシムヘシ此ノ如クニシテ始メテ能ク新兵養成ノ任務ヲ全フスルヲ得ヘキナリ

第四以上述アル所ノ各個教練ノ方法タル主トシテ新兵ヲ教育

大ル者トシテ説述セリト雖トモ各個教練タルヤ決シテ新兵ノ
專有物ニアラス故兵復習ノ時ニ於テモ大ニ緊要ナル教練ニシ
テ綿密確實ニ之ヲ實施スルヲ要スヘシ而シテ之ヲ實施スルヤ
其方法ハ概テ前ノ要領ニ準スルヲ適當トス然レトモ已ニ故兵
ハ諸動作ニ於テ熟練シアル者ナルヲ以テ其舉動速度等ハ全ク
操典及ヒ教範ニ規定セラレタル要領ニ從ヒ整正確實ニ實施セ
シムルヲ異ナリトス

就中散兵、斥候、歩哨等ノ教練ニ在テハ前述セル如キ順序ヲ
以テ屢々復習セシムルハ此勤務ヲシテ確實適當ニ實施セシム
ル爲メ緊要ナルコトト信スルナリ何トナレハ假令故兵ト雖ト
モ勤務等ノ爲メ永ク演習ニ出場セサル如キコトアレハ遂ニハ
此勤務ノ要領ヲ忘却スルコトナキニアラサルヲ以テ絶エズ其

細部ノコトヲモ確實ニ實施シ得セシムル如ク復習スルハ必要
ニシテ之レカ爲メ前ノ方法ハ殊ニ適當ナリト信スルナリ實ニ
演習人員ノ僅少ニシテ其時間亦短キ場合ニ於テハ尤モ適當ナ
ル方法ナルヘシ

要スルニ教育ノ適否ハ則チ兵卒ノ精否ニ關シ兵卒ノ精否ハ則
チ全軍ノ強弱ニ關ス教育ノ任ニ當ル者豈大ニ戒心セスシテ可
ナランヤ殊ニ各個教練ハ部隊教練ノ基礎ニシテ其熟否ハ實ニ
全軍ノ運動ニ關ス吾人ノ銳意之レカ研究ヲ爲ス決シテ無益ノ
業ニアラサルヘシ余ノ此ノ説ヲ作ス全ク之レカ爲メナルノ

然レトモ余ハ今此説ヲ止ムルニ望テ讀者諸君ニ向テ謝セサル
ヲ得サルモノアリ則チ以上余ノ説述スル所ノ者ハ唯余カ從來

受ケタル所ノ教育ト自ラ經驗シタル所ノ者トニ依リ現時余ノ適當ト信スル所ヲ説述シタルニ過キサルナリ故ニ余ハ決シテ之ヲ以テ最良ノ方法トシテ満足スル者ニアラスシテ益々研究シテ尙一層適切ナル方法ヲ求メント欲スル者ナリ故ニ今日ノ是トスル所ノ者明日之ヲ非トスル者アルナラソ自ラ期スル所已ニ此ノ如シ况ンヤ教育ノ方法タル教官其人ニ存スル者ニシテ決シテ一定ノ方式アラサルハ前已ニ述ヘタル如シ幸ニ諸君ニシテ以上ノ説述スル所ヲ以テ一個ノ問題ト做シ之レニ依テ十分ノ教示ヲ與ヒラル、コトアラハ余ノ光榮トシテ拜謝スル所ナリ實ニ又余カ之ノ説ヲ爲セシ目的ナリトス

各個教練 (完)

軍事新報

毎土曜日發行一冊定價
金參錢郵稅金五厘當時
第百六號迄發行第卅七
號以後(但第九十六號
欠)取揃之有候

本紙は去年八月より支隊戰術の研究に従事し大に好評を博したるに依り今年より更に小戰術の研究に従事し且つ日英獨の會話を開始したれば實に一生面を開きたり

本紙体載

- ◎瑣言 於ては教育、戰術、軍情、時事等に就て所信を述べ
- ◎戰術 欄に於ては戰術上の問題を掲げ之に對する讀者の答
- ◎學問 案に就き講評を加へ且の問題提出者の意見を掲ぐ欄に於ては軍人に必要なる諸般の問題を掲げて専ら

◎温古

軍事智識の啓蒙を勉むに於ては古人の偉蹟を奉け古人の事業等を鑑し之に所信を附書して武士道の振興を期す

◎問答

は軍事上の疑義を闡明ならしむるを期す
は四方諸彦の語らんと欲し言はんを欲し將た教へんと欲し訴へんと欲する眞理の人續たるを以て任す

◎雑報

に於ては内外苟も軍事眼に映するものは事の細大を問はず確實に報道するを怠らす

◎欄外

には陸海軍の叙任辭令及法令を掲ぐ
軍事新報戰術研究規定

一初級幹部に必要なる戰術を主とし問題を掲ぐ之に對する答

案は本紙購讀者は何人にてても差出す事を得

一答案は問題掲載後十日以内に本會に到着する如く差出すを要す

一答案は秀越なるもの數個を探り之に講評を加ひ可成三週間の新報に掲載す可し(多量ときは次第に亘る事あるべし)

一答案の始め及び封筒には「號數答案を記するを要す」字樣は

精書、用紙は半紙とす(鉛筆を禁す)

一講評に對する賞與若しくは反論等は有益と認むるもの、外は購録せず

陸軍歩兵大佐山口幸藏氏校閱
陸軍歩兵大尉佐久間金吾氏著

第二版部隊教練

全 定價金拾錢
郵税金貳錢

右は前隊教練實施と講評とを記録したる者にして軍事新報紙上に連載し頗る好評を博したる者なり更に大に増補訂正し且つ山口大佐の校閱を経て一冊子と爲せり青年幹部の爲めには良好なる參考書なるべし

霧峰逸史著

親燈瑣話

全 定價金拾錢
郵税金貳錢

選り筆隨は、片言以て人を動かすに足り、神通し氣會すれば、
軍情、以て世を驚かすに足る。新報敢て當らずと雖も、教育、戰術、
集して一冊子と爲す。長夜閑窓の下、又以て親燈の侶伴と爲すに
足るものあらん。

陸軍歩兵中佐松川敏胤氏著

第五版 支隊戰術實施

全 定價 金五拾錢
郵稅 金八錢

右は氏が大學校二年學生に對し、會で支隊の戰術を講述せられ
たる記録なり。

陸軍歩兵大佐山口 名 吉廣氏 陸軍騎兵大佐澁谷 在明氏 講
陸軍歩兵少佐松石 安徳氏 陸軍砲兵少佐星野 金吾氏 評
陸軍歩兵大尉橋本 康太郎氏 陸軍砲兵少佐明石 光二郎氏 評

戰術講究錄

定價 金參拾錢
郵稅 金六錢

戰術新報は、戰術研究の門を開き、枝隊の戰術に關する問
題を掲げて、答を全國に募りしに、毎回編輯するもの數百
乃ち其尤を抜きて、答を全國に募りしに、毎回編輯するもの數百
に大に四方の歡迎を受けたり。故に更に輯録して、茲に之を同好
は願たんとす。

陸軍歩兵少佐松石安治氏著

第三版 戰術講授書

一冊 同金 四拾錢
同金 八錢

右は混成旅團の戰術及び師團の上陸と戰術とを研究せられた
るものなり。

通譯官 侯野和吉氏著

軍人用臺灣語

一冊 定價金拾五錢
郵税金貳錢

右は臺灣語を最も順序正しく且つ理解し易きと主として編纂せしものなり渡臺者の好相伴たるへし

陸軍歩兵大佐中村覺氏著

第三版軍人勅諭講義

一冊 同金五錢
郵税金貳錢

右皇氏が侍從武官兼中執筆せられたるものにして勉めて奉るべき通俗に編纂せられたるものなれば何人にも解し易かるべし

本會講師拾數名著

第四版精神教育談第一集

一冊

●定價金拾錢 ●郵税金貳錢

本會講師拾數名著

第二版精神教育談第二集

一冊

●定價金拾錢 ●郵税金貳錢

右精神教育談は伊藤大將、岡澤、川村中將、佐藤、土屋、武岡少將外數拾氏の講話にして世間自ら定評のあるものは敢て費書を要せざるへし

陸軍歩兵大佐山口圭藏氏校閱
陸軍歩兵大尉竹内武氏著

第四版各個教練

一冊 同 金拾錢
同 金貳錢

右は各個教練に關する細密なる教育法を明瞭に説明したるものにして會て軍事新報紙上に連載して頗る好評を博したるものなり之を更に大に増補訂正し且つ山口大佐の校閱を経て冊子と爲せり各個教育には適切ある參考書なるへし

軍事教育會講義錄

二十冊 同 九拾六錢
冊 金拾八錢

併第一、二、三、四期を混して取揃のと

●軍人ハンカチーフ (きやらこ)

定價壹枚金五錢五厘遞送費は三十枚毎に二百目の小包料を要す但し百貳拾枚以上は本會に於て小包料を負擔す

軍人ハンカチーフ發行趣意書

軍人ハンカチーフは素と佛人の立案に係りて方今盛んに歐米各國に行はれ某々國の如きは軍人の必需品と爲すに至れり本會夙に其有益なるを認め一昨年來國案の研究に従事し近き漸く竣成を告ぐ其軍人に必要なるは論を俟たず舉國皆兵の命日一般國民にも亦軍事思想養成上甚だ必要なるを信じ茲に之を發行して世に公にすると爲せり

軍事端書發行趣意書

一枚印刷費金一錢(端書代共金貳錢五厘)遞送費は三百五十枚毎に二百目の小包料を要し千枚以上は本會に於て小包料を負擔す

夫れ有聲の書と無聲の詩とは交互心目に照映して以て教育風化を裨補洽及するの妙用あり本會夙に此に見るあり曩に講義録新報等を刊行し且つ軍人手巾を印刷したり而して今や又講義録に軍事端書を發行せんとす

軍事端書とは郵便端書の裏面に鮮麗なる最新印刷法コロタヤを以て戦場の光景將帥の風姿忠勇義烈の偉蹟等を寫したるものなり

顧ふに昨日の戦雲は將さに春曉夢裡に忘失せられんとし東洋の狂瀾は將さに地を捲て來んとす此時に方り海内一人の情眼を容さず同胞瞬時の放心を許さず是を以て本會は交通頻繁書籍織るか如きの世態を利用し此端書を發行して以て世人を以て日常信書贈答の際戦時の情景等を瞥見し知らず識らず軍事思想を喚起し軍人精神を作興せしめむと欲す大方同感の士卒に本會の微意を諒し此端書の普及を贊助せられなは神州全般永く恬熙の流弊を生せず益々皇威國光を發揚するに庶幾からん

十

印刷着手中の物

士官學校譯

戦術上の決心及命令

全一冊 定價四拾錢 郵税金六錢

右は獨乙某參謀大尉の著述にして各學校戦術教官の間に良書の名あり本會特に請ふて公にすると爲せり七月下旬出來の筈なり

歩兵戦術 小隊中隊ノ部

全一冊 定價貳拾錢 郵税金四錢

右は本年一月以來軍事新報紙上に於て研究せられたる小戦術を輯めたるものなり八月上旬出來の筈なり

十一

軍事新報部編輯

典令問答集

全一冊 定價 金拾圓
郵稅 金貳圓

十二

右は軍事新報紙上に掲載したるものを編輯したるものにして
専ら操典要務令等の疑問に對し懇篤切實に答解したるものな
り七月下旬出來の筈
陸軍歩兵大佐東條英教氏 陸軍歩兵中佐仁田原重行氏
陸軍騎兵大佐澁谷在明氏 陸軍砲兵少佐星野金吾氏 講評
陸軍歩兵中佐松川敏胤氏 陸軍砲兵少佐有田恕氏

戰術講究錄

第二集 定價 金叁拾圓
郵稅 金六圓

右は本年一月以來陸軍大學校教官等軍事新報紙上に於て研究
せられたる支隊戰術を輯めたるものなり八月下旬出來の筈

明治三十一年四月十五日印刷
同年五月十三日發行
同年十一月廿三日再版
同年十二月廿七日第三版
同 三十二年八月廿一日第四版

東京市麹町區土手三番町二十一番地

發行兼 編纂人 高橋 靜 虎

東京市神田區柳原河岸十七号地

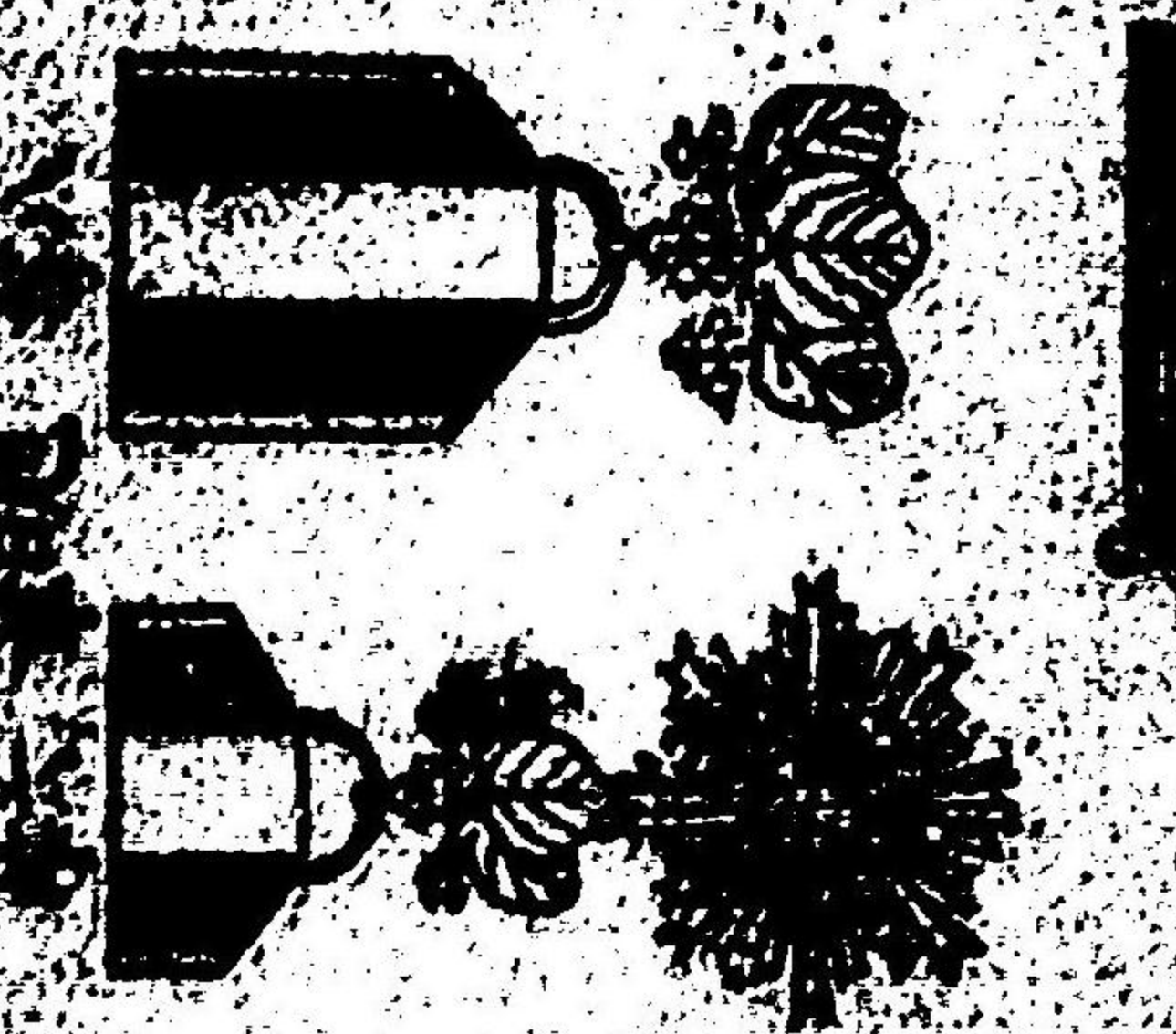
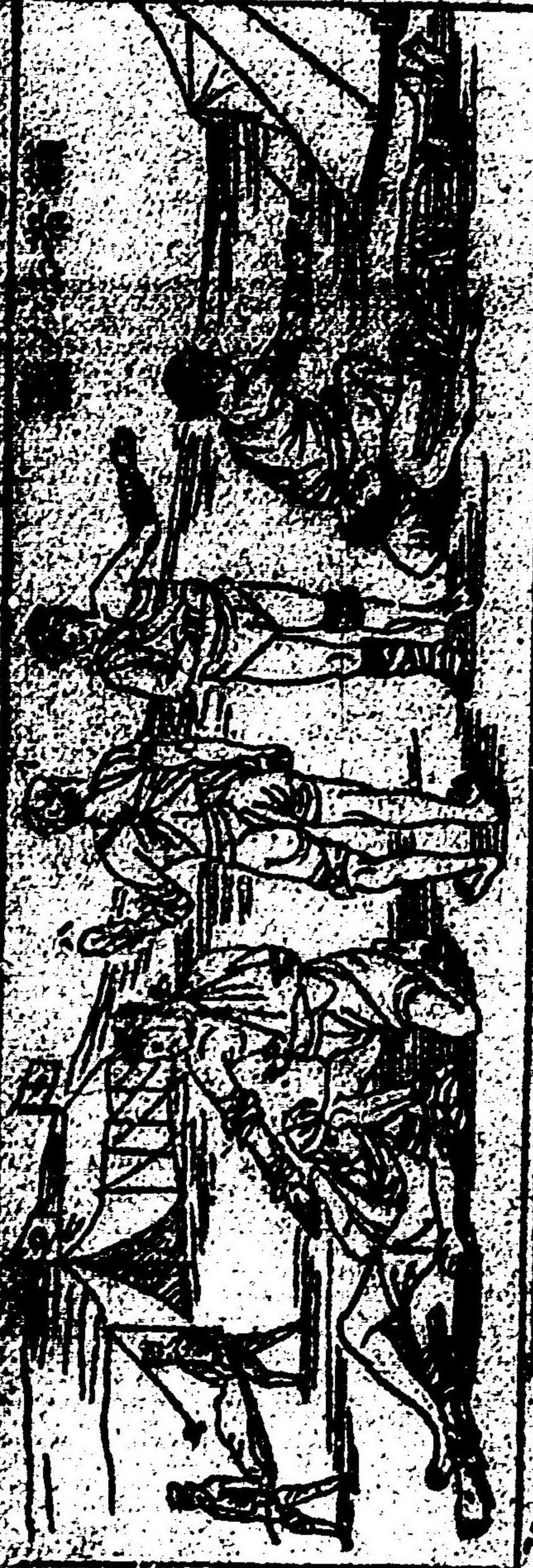
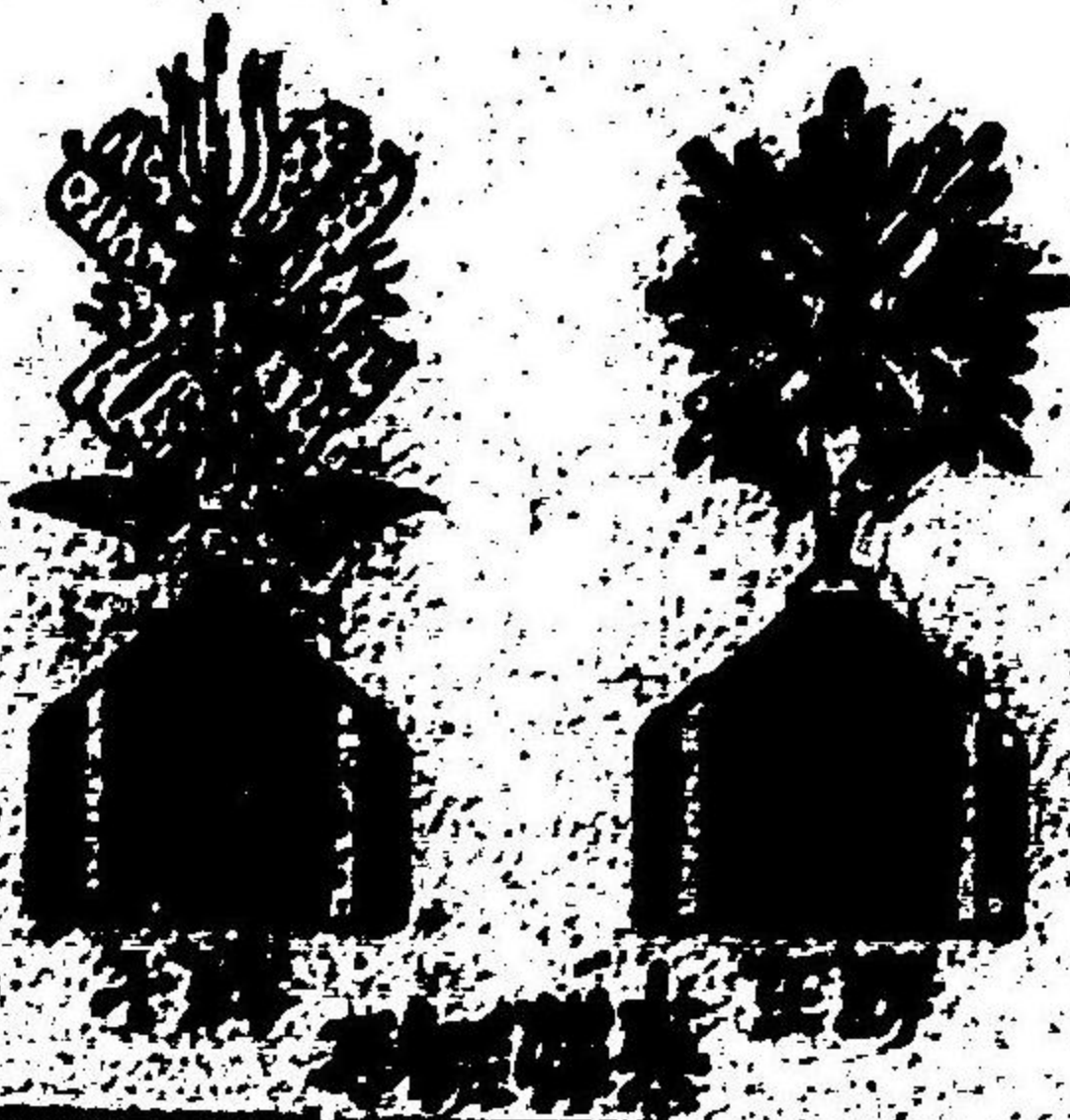
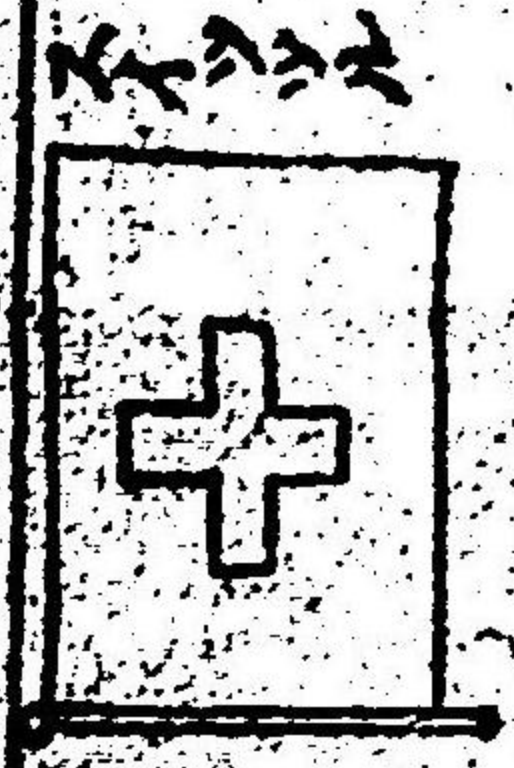
印刷人 吉田 章 五 郎

東京市神田區柳原河岸十七号地

印刷所 日新 舍

東京 九段 坂 上

發行所 軍事教育會



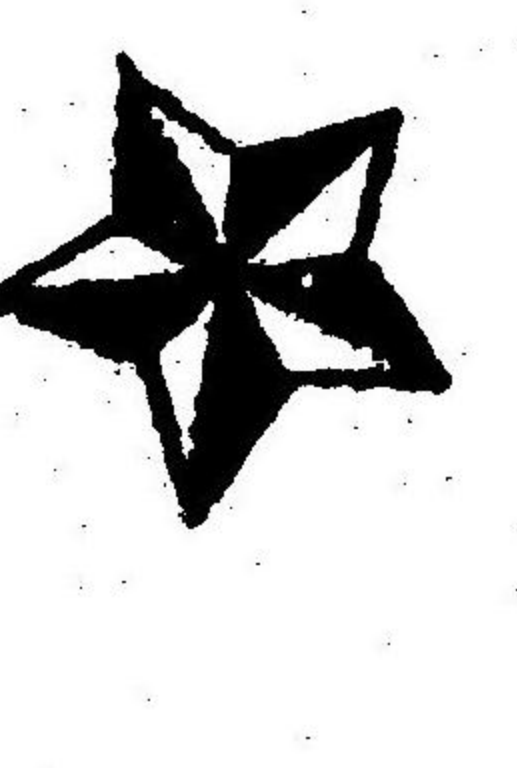
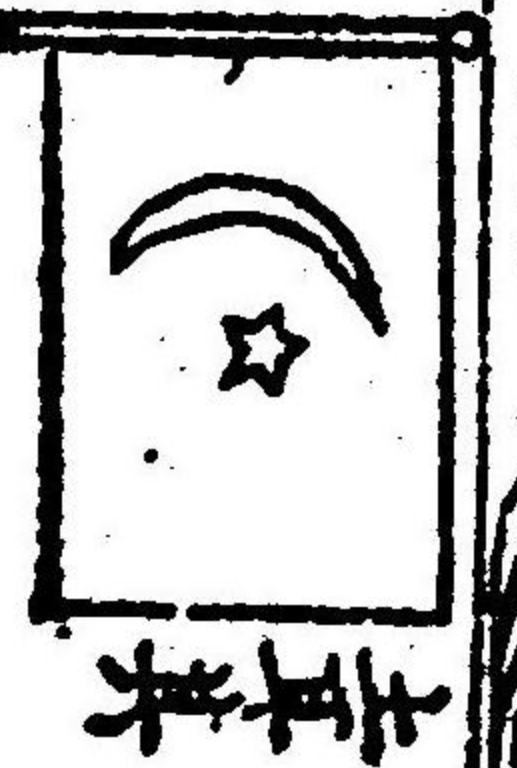
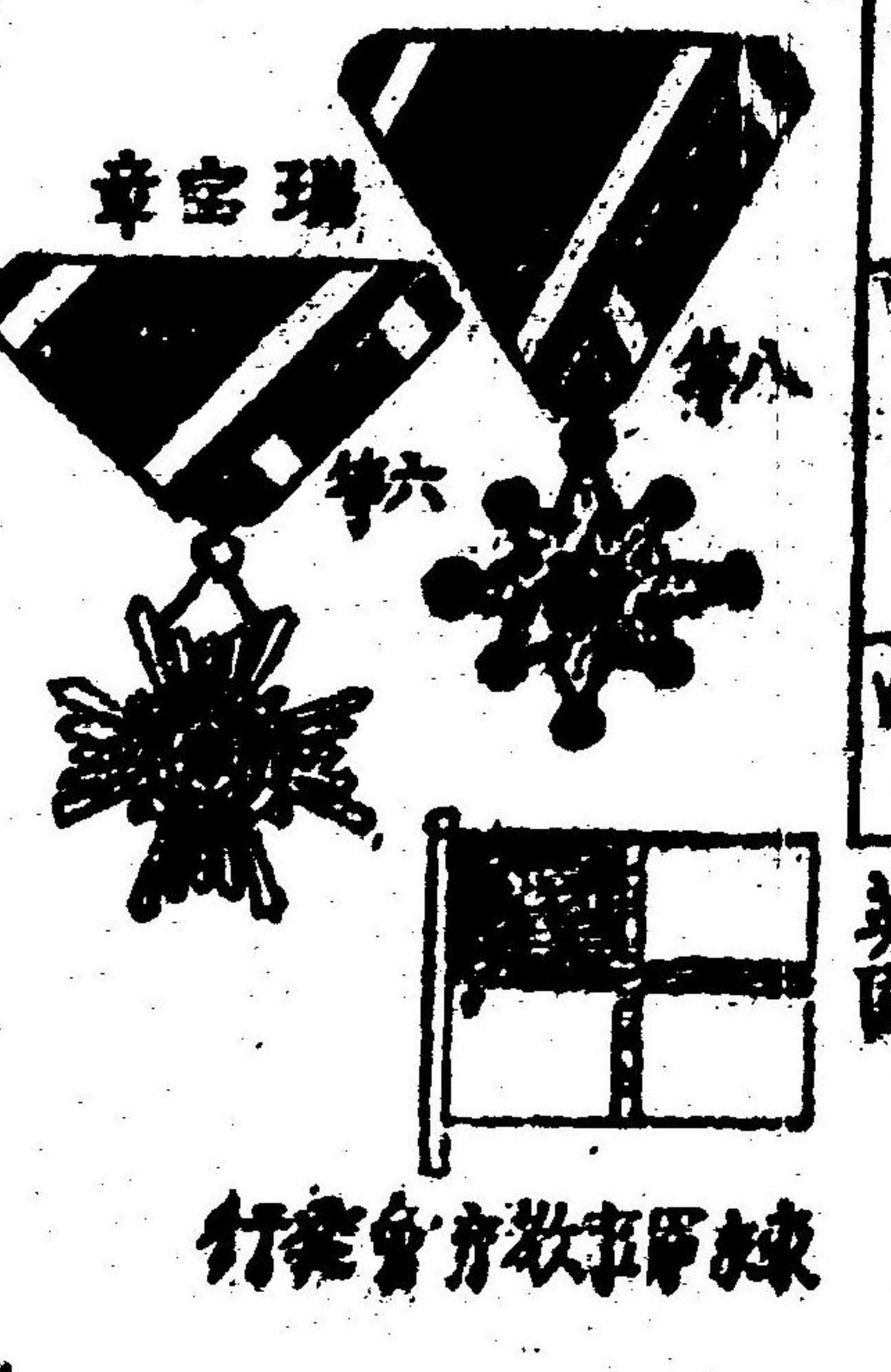
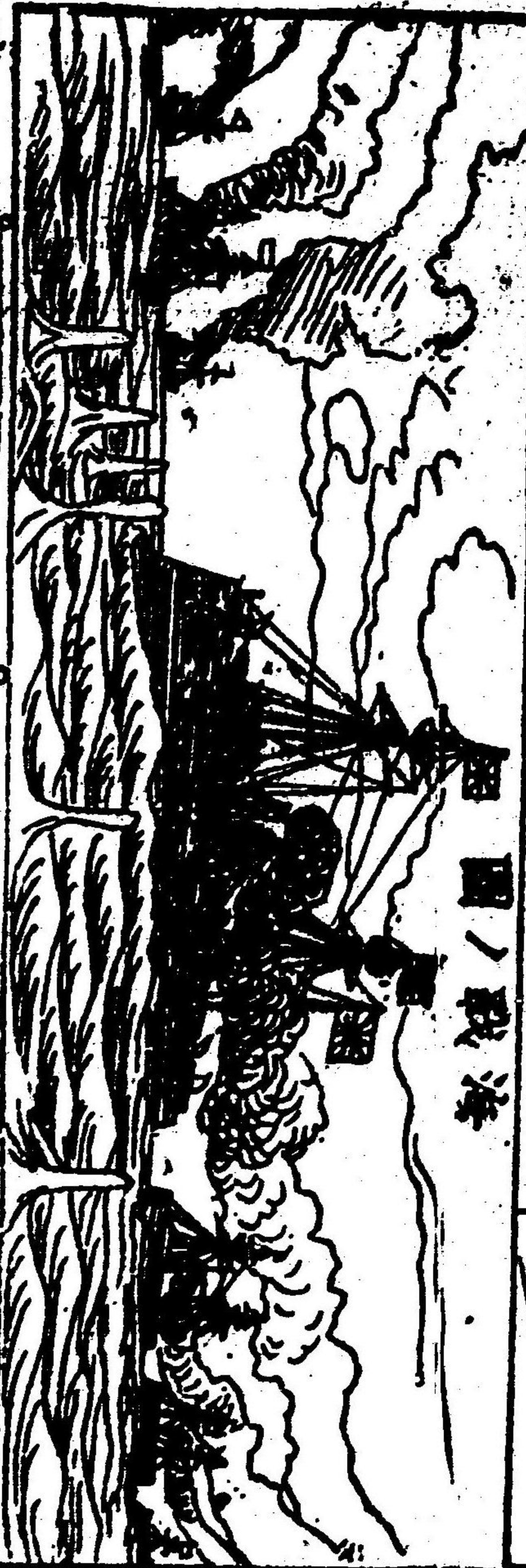
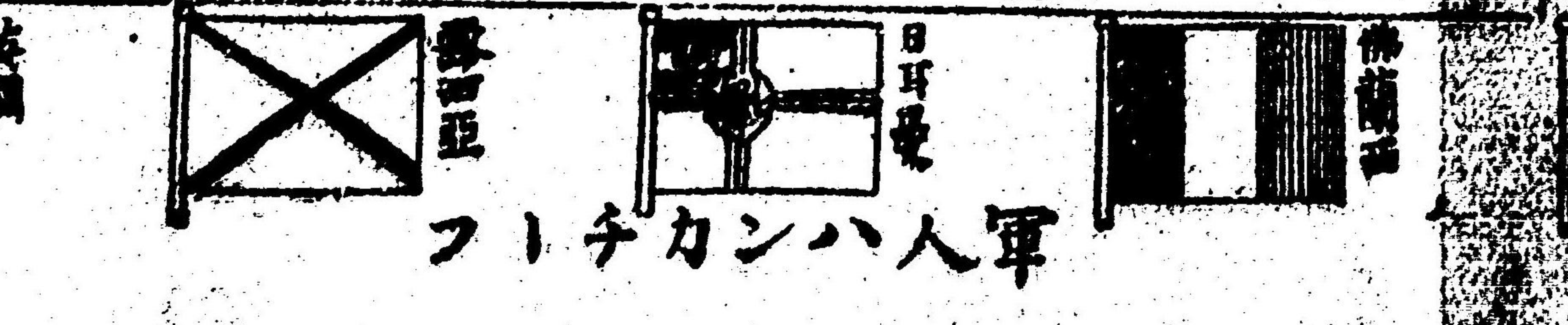
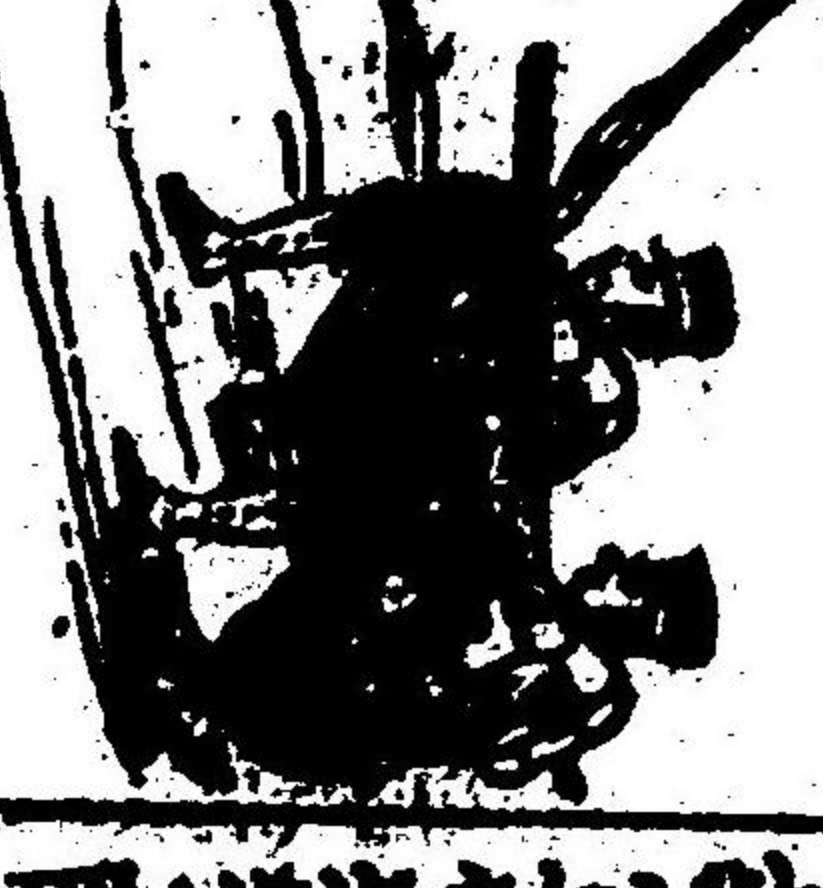
則五兵
一敵來襲ハハ犠牲トナリテ御ク
一見ラレスレテ能ク敵ヲ見ヨ
一晝ハ眼ヲ役シ夜ハ耳ヲ使ハ



則五關戰
一能ク編斷ニ亦結ク協同ヲ
一戰勝ハ常ニ健脚ノ軍ニ歸ス
一善ク射撃スル者能ク敵ヲ破ル
一進ム所風ノ如ク止マズ林ノ如ク
一敵ヲ背スル者ハ自滅ニ陥ル



則五令傳
一守ル所ハ必ズ固ク守ル
一攻ム所ハ必ズ速ク攻ム
一敵ノ動カハ必ズ察ス
一己ノ動カハ必ズ秘ス
一命ヲ守ルハ必ズ先



行軍會方教軍師練

